

学びや

ヨイムスワッポ

京都の町家では、正月になると座敷床に新年を祝う掛け軸が多く飾られてきました。特によく見られるのは、日の出や松、鶴などが描かれた、とてもおめでたい絵です。

明治時代には、町衆の寄り合い場所であった町組会所が小学校の中にある、新年の初寄りもそこで行われていました。そうした会所での新年行事

元成逸校（現北総台支援学校、上京区）には豪快な筆さばきで知られる鈴木松年の「旭日老松図」（1900年制作）が残っています。松は寒い冬に負けずに緑の葉を茂らせることから不老長寿を願う吉祥のモチーフとして好まれました。同じ松を描いたものに

贈されたり、町の絵師に依頼して描かれたりしたものです。

元成逸校（現北総台支援学校、上京区）には豪快な筆さばきで知られる鈴木松年の「旭日老松図」（1900年制作）が残っています。松は寒い冬に負けずに緑の葉を茂らせることから不老長寿を願う吉祥のモチーフとして好まれました。同じ松を描いたものに

円山応挙の子孫、国井応陽の「生祥頭瑞図」（1914年制作、中京区の元生祥校蔵）などがあります（写真1）。太く、立体感のある幹は応挙の松をほうふつさせます。さらに松だけではなく、竹や霊芝（万年草）と併せて描かれ新春にびつたりのためたさです。

元明倫校（中京区）所蔵の南海吉堂筆「松鶴図」（1908年制作）では、松に加えて二羽の鶴の姿が描かれています。鶴は古来より仙鳥として大切にされてきましたが、中国の詩人王維が「鶴巢松樹遍（つるはしょうじゅ

円山応挙の子孫、国井応陽の「生祥頭瑞図」（1914年制作、中京区の元生祥校蔵）などがあります（写真1）。太く、立体感のある幹は応挙の松をほうふつさせます。さらに松だけではなく、竹や霊芝（万年草）と併せて描かれ新春にびつたりのためたさです。

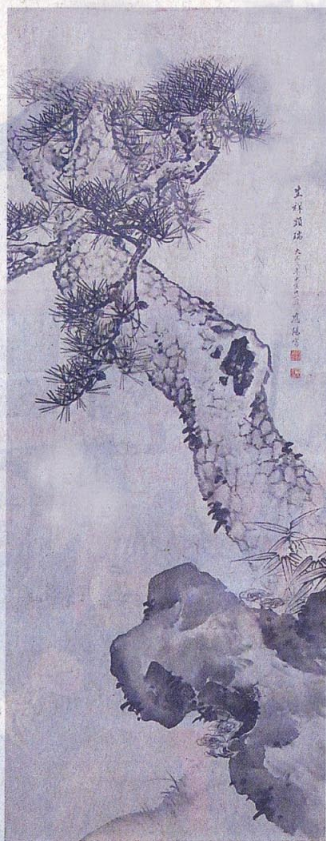
きました。写真2は1937（昭和12）年、桂尋常高等小（西京区）の作法室です。校舎の増改築落成記念に撮られた1枚です。

こうした祝賀の絵画は、正月の他、さまざまな記念式典やお客さんを招待する時など、学校にとって大切な日を彩ってきました。写真2は1937（昭和12）年、桂尋常高等小（西京区）の作法室です。校舎の増改築落成記念に撮られた1枚です。

まいった気持ちになったことに、子どもたちも引き締まっています。

今ご紹介した「旭日老松図」と「生祥頭瑞図」は学校歴史博物館（下京区）で2月3日まで展示されています。

特別な日を演出 彩る



生祥頭瑞図（1914年、元生祥校蔵）

写真1 国井応陽「生祥頭瑞図」（1914年、元生祥校蔵）

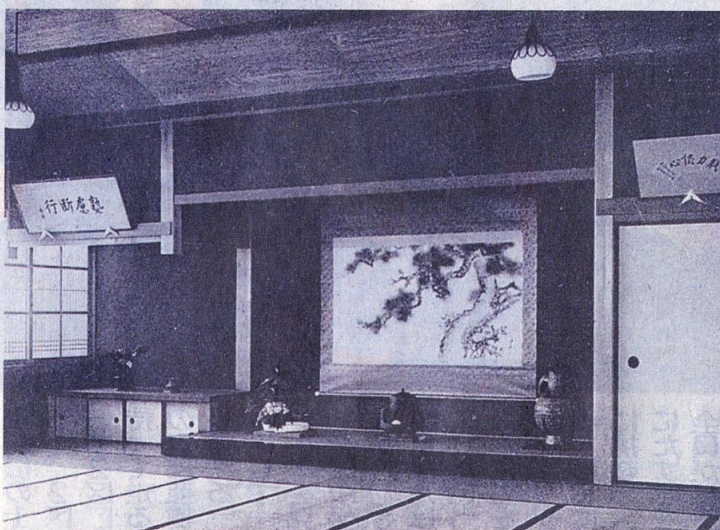


写真2 桂尋常高等小学校の作法室（1937年）